

意見交換会実施報告書

実施日時	令和3年7月14日（水）午後2時から午後4時まで		
実施場所	砺波市立砺波東部小学校		
出席議員	山本善委員長	島崎副委員長	小西委員
	開田委員	境 欣吾委員	山田委員
参加者数	男性 12人 女性 2人 計 14人 (団体等の名称 砺波市立砺波東部小学校)		
実施概要	テーマ：GIGAスクール構想1人1台端末活用状況		
	【1 主な質疑】		
	Q 端末を使った授業の準備や教材の準備は勤務時間内に対応できているのか。		
	A 勤務時間内に対応できるよう学年間でコミュニケーションを取って進めている。		
Q タブレットや電子黒板を操作するにあたり、先生にも温度差があるのではないか。			
A 学校として講習会を通して差を無くすようにしている。また、互いにどのような使い方をすればよいか共有を図っている。			
Q ICTサポート支援員の派遣が、現在月2回程度となっているが、もう少し回数を増やす必要があるのではないか。			
A 本年4月から学習支援ソフトの活用スキルなどの向上をさせるために市から月2日支援員を派遣していただいているが、パソコンの得意な先生方もいらっしゃることから、現在のところ十分に対応できていると思っている。			
Q 他の自治体では、夏休みにタブレットを自宅に持ち帰る学校もあると聞いているが、砺波市はどうされるのか。			
A 現在のところ持ち帰らないことになっているが、今後の対応については、使用ルール面等の課題もあるため、また検討していきたい。			

Q 児童・生徒の、目への健康対策はどうしておられるのか。

A タブレットを見る時は、30センチ以上離す、30分に1回は目を休め20秒遠く見るなどの指導はしているが、今後も目の健康を守る指導に努めていきたい。

Q タブレットの画面だけでなく、紙ベースとの使い分けの模索も必要と考えるが、その為には、何台かのプリンターの設置が必要ではないか。

A 現在のところ不自由は感じていないが、必要な時は職員室のプリンターで対応している。

Q GIGAスクールによって先生方の準備時間はどのように変わっているのか。従来に加えて多くなったのか。ペーパーレス化により印刷は減ったのか。

A 教材準備の手間、準備時間は少なくなっているように感じる。一度作った教材は何回も使える。共有化もできる。手軽に準備ができ、子どもたちは、端末に入力することが魅力的に感じているので集中して出来ている。

プリント学習では、今までは一枚一枚配っていたものが、カメラで撮って、電子黒板に写せることで済むこともある。

【2 主なご意見・ご要望等】

他市と比較して電子黒板は恵まれており、授業のバリエーションが広がっているとのことであった。

また、タイピングの練習は行っているが、低学年はタイピングによる文字入力が難しいことから今は指で入力を行っている。タッチペンがあれば書きやすく、資料に書き込んだりもできるとのことであった。